第３学年　英語科学習指導案

日　時　平成13年６月25日　月曜日　第３校時
学　級　３年〇組（男子13名 女子20名 合計33名）
指導者　北上市立上野中学校　教諭　高 橋　明 浩

１　単元名　　Unit 3　The First Woman in Kyogen

２　単元設定の理由

新出事項として「It ＋ be動詞 ＋ to不定詞」、「第４文型の直接目的語が疑問詞 ＋ to不定詞である構文」、「不定詞の副詞的用法のうち原因を表すもの」の３つを学ぶ。どれにも含まれるto不定詞については、２学年U5で「副詞的用法」（I went to the library to study math.）、「名詞的用法」（I want to see her picture.）、「形容詞的用法」（I want something to read.）を学んでいる。また、第４文型については２学年U3（Show me your passport, please.）で学習済みである。さらに、「疑問詞＋to不定詞」については３学年U3のStarting Out（I don't know how to buy a ticket.）で学んでいる。

３つの新出事項のどれも単語の配列が複雑であるが、既習事項を上手に関連づけて指導できれば理解はそれほど難しくはないと思われる。また、指導者がいろいろな場面を考え、機能面を考慮した例文を実際に言わせたり書かせたり、さらには自己表現までねらう指導をして、その有用性に気づかせることが文型定着の大きな動機になると考えられる。

Listen and Speak及びRead and Thinkにおいて取り上げられている話題は、日本の伝統芸能としての狂言及び日本初の女性狂言師である和泉淳子さんへのインタビューである。生徒たちは小学校６年の国語において「附子」を学んできているため、狂言はある程度知識がある。それをふくらませながら、日本の他の伝統芸能についても思いを馳せさせたい。また、淳子さんへのインタビュー内容を通じて、プロとして伝統芸能を受け継いでいくことの厳しさ、その意義などについて、生徒自身が「どう生きるか」という問題と絡めて考えさせていきたい。

３　生徒の実態

この学年の生徒たちは１学年の時に指導者が英語を教え、一年ぶりに教えている学年である。３年〇組は学級全体の雰囲気として明るく元気がよく、指導者の問いかけに対する反応も活発であることから授業はやりやすい。聞き取り能力はかなり高いが、英語を読んで理解する力、英語を書いて表現する力は低い。

授業のレベルとしては、基礎・基本の徹底を意識して、下～中位の生徒を対象に指導しているつもりであるが、作業の速い上位の生徒が時間をもてあまし、私語をするなどの問題が見られた。そこで、書くなどの作業をさせる場合には、上位の生徒に対するプラスアルファの課題（ワークのページを指示するとか、上位生徒用の発展問題をワークシートにつけるなど）を、「終わった人はこれをやってください」という指示とともに与えることにしている。課題の解答をする場合であっても、一般生徒向けは丁寧に答え合わせをするが、発展的なものはサラッと流しても上位の生徒は理解しているようである。

４　単元の目標

◆言語材料・言語活動面

・「It ＋ be動詞 ＋ to不定詞」（基本文はIt is hard for me to speak English.）の、語順と意

味内容を理解し、それを使って場面に応じた表現ができる。
・「第４文型の直接目的語が疑問詞 ＋ to不定詞である構文」（He showed me how to make a cake.）を、第４文型及び「疑問詞 ＋ to不定詞」の構文を想起しながら理解できる。
・「不定詞の副詞的用法のうち原因を表すもの」（I am glad to hear that.）の表す意味内容を理解し、それを使って場面に応じた表現ができる。

◆題材内容面
・日本初の女性狂言師、和泉淳子さんへのインタビューを通して、淳子さんが狂言を始めた頃のようす～女性狂言師としての考え方～淳子さんの狂言のとらえ方、などの内容を理解することができる。

5　指導計画（10時間）

・Starting Out　　３時間
・Listen & Speak　　３時間
・Read & Think　　４時間（本時１／４）
・Let's Try & Write　　０時間

6　本時の指導

⑴　本時の目標
・Small Talkでの教師の質問に、口頭または文字で答えることができる。
・「第４文型の直接目的語が疑問詞 ＋ to不定詞である構文」（He showed me how to make a cake. のような英文）を第４文型及び「疑問詞 ＋ to不定詞」の構文を想起しながら理解できる。
・P.22の単語・イディオムを発音でき、意味を理解できる。
・P.22の、和泉淳子さんへのインタビュー内容を聞いて、教師が与えた２つのポイントについて聞き取ることができる。
・本文を読んで、学習プリントを使いながら内容を理解することができる。

⑵　指導の構想
・Small Talkは、公子先生の授業からヒントを得て、表現力、特にも「書く力」をつけるために最後の質問とそれに対する生徒オリジナルの回答をノートに書かせる。口頭のみで行うよりも時間はかなりかかるが、書くことに対する抵抗感を減らし、表現の幅を広げるのに効果的であると考える。
・「第４文型の直接目的語が疑問詞 ＋ to不定詞である構文」については、２年生の教科書を使って復習させながら「疑問詞＋to不定詞」を自然に混ぜて導入していきたい。使用する例文については、できるだけ場面を伴った日常的なものを準備したい。
・単語の導入については、生徒が予習してきていることを前提に進め、できれば発音記号によって発音してみることを奨励する。また、派生語や例文を示したり、単語によっては英語圏の文化にかかわる話などを織り交ぜて導入する。
・本文の理解については、Unit 3からプリントを使用している。一部の生徒との問答によって授業を進めてしまい、他の生徒は何もしなかった（＝何もわかっていなかった）、ということを防ぐためである。生徒に作業をさせることは、これまた時間がかかるが、読んで理解する力を少しでも伸ばすためには欠かせない。

・なお、本時ではお見せすることはないと思うが、Your Turnなどで時間をとって生徒に作業をさせたり自己表現をさせたりする場面では、机間巡視をしながら、きちんと取り組んでいる生徒のノートにサインをして回っている。このノートは、期末に集めて得点化し、成績に加算する予定である。

⑶　本時の展開

段階	学　習　内　容	学　習　活　動	時間	支援上の留意点
導入	1 あいさつ	・元気よくあいさつをする。	0	
	2 Small Talk	・教師の下の英問に、英答する。 -Have you ever sent an e-mail？ -Which do you think better, to be single or to be married？ -Do you know how to use a computer？	20	・一つの質問は、２～３名の生徒に。 ・答えられなければ支援する。 ・最後の質問は、質問内容と生徒の答えをノートに書かせ、数名の生徒を指名して答えさせる。
展開	3 新出文型の導入	・まず第４文型というものの存在について説明し、その直接目的語を「疑問詞＋to不定詞」に置き換えたときにどんな意味になるか予想させる。 ・意味を確認したあと、軽くパタンプラクティスをする。	15	・２年生の教科書を参照させる。 ・板書しながら目でも確認させる。
	4 新出単語の導入	・フラッシュカードを見て、教師の後について発音する。	5	・発音記号をできるだけ活用させる。 ・フラッシュカード使用
	5 p.22の本文理解	・CDを聞いて、教師が与えた２つのポイントを聞き取る。 ・本文を読んで、ワークシートの日本語の空欄を埋め、一定時間経過後に、答えを聞いてチェックする。 ・教師の説明を聞いて、大事なところをメモする。	10	・CDとPC使用 ・聞き取り段階では教科書を閉じる。 ・教科書使用、助け合いを推奨する。 ・作業を終えた生徒はワークをやらせる。
まとめ	6 次時の予告 7 あいさつ			

⑷　評価の観点

・Small Talkでの教師の質問に、答えることができたか。
・「第４文型の直接目的語が疑問詞 ＋ to不定詞である構文」を理解できたか。
・P.22の単語・イディオムを発音でき、意味を理解できたか。
・和泉淳子さんへのインタビューを聞いて、教師が与えた２つのポイントについて聞き取ることができたか。
・本文を読んで、学習プリントを使いながら内容を理解することができたか。